



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行人 末吉卓也 1部60円年間共1100円

04年10月10日～05年10月29日 「聖体の年」 司教区昇格五十周年 小教区が活性化し 教区が一つとなるように

ミサへの参加者を増やそう

本土地区班長研修会で分かち合い

「ミサ参加者を増やすための班の役割」をテーマにした本土地区班長研修会が、六月十二日(日)午後、鹿児島カトリックで開催された。出席者たちは分団会でそれぞれの小教区における現状や工夫を分かち合い、また司教講話で「ミサの大切さと班長の心構え」を学習した。

二〇〇〇年から毎年開催されている「班長研修会」(永山幸弘神父担当)は、これまで「班が小教区の細胞」であることを前提に、班制度の基本理念や班長の役割、そして班が宣教的になるための方策などについて話し合ってきた。

今年度の班長研修会が取り組んだのは、ミサ参加者を増やすための班のあり方。伸び悩むミサへの参加者数を増やそうと本土地区の十八小教区から八十人を超える班長と司教が集まった。研修会を開催するにあたり担当の永山幸弘神父と企画推進部は、各小教区にミサ参加者を増やすための方法についての事前調査を行った。各小教区からは、教会から離れている人たちの働きかけや高齢者

や体の不自由な人たちがミサに行けるよう送迎などの協力のほか、子供や外国人へのミサの配慮、ミサの理解を深めるための学習の大切さが寄せられた。

午後一時から始められた研修会は分団会での分かち合いが中心。出席者たちは十のグループに分かれ、それぞれの所属する小教区での取り組みや現状を熱心に分かち合った。

分団会後はカテドラル主聖堂で全体会が開かれ、分団会報告と司教講話があった。各分団からは、事前調査にあつたようにミサ参加



分団会で熱心に分かち合う司教と班長たち

「班共同体の活動は主日のミサから始まる」とミサの大切さを説いた上で、ミサの理解を深めるための学習の必要性、またミサに参加することや習慣化するための努力の大切さを挙げた。またミサ中の説教では、洗足式を取り上げ、班長たちにも弟子たちの足を洗ったキリストのような心で班員のために働いて欲しいとメッセージを送った。

研修会の担当永山幸弘神父は「班は司教評議会の単なる御用機関や執行機関ではない。班の独自性、固有の使命を前面に出しながら小教区全体を活性化して欲しい」と希望を語った。

教区修女連研修会

教区修道女連盟(山浦イエズス会長)は六月五日(日)ザビエル教会で今年度の総会と研修会を開いた。八十人出席。

会ではまず手際よく総会をすませた後、プラチド・イバニエス神父(イエズス会・日本殉教者修道院長)から「聖体に養われる修道女」のタイトルのもと午前と午後、二回にわたる講話を聞いた。イバニエス神父は黙想指導司教としての豊かな体験をもとに、回勅「教会にいのちを与える聖体」とまだ邦訳されていない教会公文書を使って聖体中心の生活のためのヒントと、福音書から聖体についての黙想の深い導入を与えた。集まった会員たちは講師の情熱と真剣さに心打たれ、最後のミサで共に祈って感謝の一日を終えた。

司祭の消息

▼田邊 徹神父

引退後、鹿児島市桜ヶ丘に住んでいたが、五月末をもって長崎(長崎市三ツ山町一三九一) 養護老人ホーム恵の丘に居を移した。

羅針盤

教会法に無頓着な私は司教区と知牧区の違いはよく知りませんでした。長崎教区に生まれ育った私は、実際鹿児島に来て何と小さい教区かと思つた程度でした。

教会の教や神父の教、信徒数など比較にならないほど長崎と大きな差がありました。何しろ



川内教会で、月に一回鹿屋の敬愛園と枕崎の福留さんの家を借りてささげられていました。神父も出口教区長、七田八十吉、七田和郎、川口清、田邊徹、田原章の六人でした。経済的にも貧しく、司祭は外国から

鹿児島教区誕生前夜

田邊 徹

交通費、賄いさんの給料もそこから出さねばなりません。勿論出せるはずもなく、私が雇った賄いさんは、デパートの縫い物を受けて、その工賃で生活していました。ローマから司祭生活補助金として援助がありま

したが、それを使うと教会用地の買収や建築費がなくなるので使用できなかつたのです。実際、ザビエル教会の建物や鴨池教会、白百合幼稚園と垂水幼稚園の敷地と建物の買収費に充てました。それで司祭の中には明日の米を買うこともできない日々が多々ありました。司教区になって残された教区の現金預金は、僅か缶詰缶に入った小銭だけでした。

そのような状況でレデンプトール修道会が鹿児島に来てくれて、勇気百倍になったとき鹿児島教区創立のニュースが飛び込んできたのです。しかも戦後切り離されていた二年前の奄美の教会の復帰とともに。

古巣神父から学習

三教区司祭黙想

大分、那覇、鹿児島教区司祭の合同黙想会が五月二十三日(月)から二十七日(金)まで行われ、司教五人、司祭二十七人、終身助祭四人が参加した。今年はその那覇教区が当番で、会場は安里那覇教区センター。指導司祭は、長崎教区司祭で島原教区主任司祭の古巣馨神父。

キリシタン時代の信仰生活と古巣神父が出会った人々の信仰や体験を紹介しながら、現代での宣教と司

牧へ向けて希望と励ましのメッセージが語られた。日本の初代教会は、キリストの王職、預言職、祭司職の務めを果たすミゼリコルディアの組、サンタ・マリアの組、エウカリスト・イアの組があり、社会を感化する力を持っていた。二百五十年間潜伏した教会は、ゆるしの恵みを生きた教会。キリスト者のしるしは、明るさ、気前の良さであり、それは解放された人

のしるしである。司祭の生涯の務めは、自らを「ありがとうの秘跡」にすることである、といったことなどが話された。

古巣神父は、一九八一

年長崎で、ヨハネ・パウロ二世教皇から司祭に叙階された一人。「キリストの光を身にまとった分だけ、闇に光になれる。しかし、司祭自身、暗い陰の世界に生きていくから、唯一の光源から離れたとたん、他人のために灯火となることはできない」という教皇の説教も紹介された。

黙想期間中の食事は、地元信徒やシスター方によって郷土料理が出され、最終日夜のガーデンパーティーでは、フィリピン信徒による子豚の丸焼きも出て、心身ともに神の恵みで満たされた五日間だった。

終身助祭制度の導入に当たって 教区終身助祭養成委員会

すでにご存じのように、鹿兒島教区では、終身助祭叙階の準備を進めています。そこで、終身助祭制度導入に当たって、終身助祭について述べておきたいと思えます。

終身助祭制度の 再興と導入

カトリック教会には、初期のころから、現在の助祭に当たる奉仕職が存在しました。教父たちの証言から司教、司祭とともに、助祭も教会の公的役務者、即ち聖職者階級に属する者として、司祭職のためではなく奉仕のために、選ばれたようです。司教や教皇を助けて活躍した助祭も少なくありません。

ところが十世紀を過ぎると、次第に助祭が教会から姿を消していきます。正確な事情は不明ですが、恐らく司教、司祭の数が行きあたり、それまで助祭が行きあたり、それをみな司祭が行うことができたり、あるいはキリスト教社会になって信徒の団体が慈善事業などを活発に行うようになったからでしょうか。

十六世紀のトレント公会議は司教、司祭とともに助祭を聖職者とし、助祭に任じる式を叙階の秘跡と認めてはいませんが、助祭職は、司祭になる前の通過過程にすぎませんでした。それは、第二バチカン公会議まで続きました。

現代社会の要請にこたえるために教会の見直しと刷新をはかろうと、鹿兒島教区では、二〇〇三年に司祭評議会、全司祭集会で司祭たちの意見を聞いたうえで、司教は教区として終身助祭制度を導入することを決定しました。

そのためには、終身助祭希望者の選定と推薦、その養成と判定、財務的役割など種々の任務をこなす「教区終身助祭養成委員会」を組織する必要があります。こうして、二〇〇四年にその委員会が設置され、教区への導入のスタートが切られました。

今年、司教区昇格五十周年を迎えるに当たって、司教はすでにそれぞれの分野で教区の活動や宣教師での奉仕に経験豊かな二人を選び、終身助祭に叙階する方針を定め、現在、その準備を進めているところです。

終身助祭とは、先に述べたように、これまでの助祭は司祭になろうとする人が司祭に叙階される直前の段階として受けるいわば通過的な役務にすぎませんでした。終身助祭は、これと異なり、司祭になることを目指すのではなく、生涯ずっと助祭として奉仕するために叙階されます。だから「終身助祭」とよばれるのです。もちろん、司祭になる前の過程として受ける場合も、終身助祭の場合も、助祭であることに違いはありません。

助祭の務めに関して、先の「教会憲章」はこう述べてます。「聖職階級の位階に助祭がある。具体的には司教が指定する範囲内において、「荘厳に洗礼式を執行し、聖体を保管し、分け与え、教会の名において婚姻に立ちあがり、祝福し、死の近くにある者に聖体を運び、信者たちのために聖書を朗読し、人々に教えを告げ、信徒の祭礼と祈りを司会し、信徒の祭礼と祈りを司会し、準秘跡を授け、葬儀と埋葬を司式する」(同上)。要するに「典礼とことばと愛の奉仕」を行うと言えます。

しかし、決して司祭の助手というわけではありません。教会はイエス・キリストから託された使命を司教、司祭、助祭からなる聖職者階級と福音的勧告を生きる修道者と社会のなかで信仰を生きる信徒からなるすべてのメンバーで果たすのですが、助祭はそのなかで、主として教会の名において「奉仕の務め」のため「何故、いま導入を？」

「終身助祭の資格は司教に直属し、司教の任命に従って務めを果たします。」
「終身助祭の資格は司教に直属し、司教の任命に従って務めを果たします。」
「終身助祭の資格は司教に直属し、司教の任命に従って務めを果たします。」

<KABAYAN SEKSIYON>
"Ipangilin mo ang Araw ng Pahinga at pabalinin ito"
 Ang pangatlong utos: "Ipangilin mo ang Araw ng Pahinga at pabalinin ito. Ang ibig sabihin ay nagpapalaala sa kabanalan ng araw ng pahinga." Ang pangatlong araw ay araw ng taimtim na pagpahinga, para sa Panginoon banal ito. Ipinapalaala din sa araw na ito ang paglikha. Sa Ex. 20:11. "Sa loob ng anim na araw, ginawa ni Yawe ang langit at lupa at ang dagat at lahat ng naroroon, ngunit nagpahinga siya sa ikapitong araw." Kung kaya pinagpala niya ang araw na ito at pinabanal. Sinasabi rin na ang araw ng Panginoon ay nagpapagunita sa mga Israelitas ng kanilang kalayaan sa pagkaalipin doon sa Ehipto. Ito ang araw na inilabas sila ni Yaweng-Diyos nang may malakas na kamay at nakaunat na bisig. Kaya sinabi ni Yawe sa mga Israelitas ang araw ng pahinga bilang kahulugan ng di-mababagong tipan. Banal ang araw na ito para sa Panginoon at itinakda ito para sa kapurihan ng Diyos, sa Kanyang mga nilikha at ang ganap na pagligtas niya sa mga Israelitas. Ang gawaing ito ng Diyos ay isang halimbawa para sa tao. Kung ang Diyos sa ika-pitong araw ay nagpahinga kailangan magpahinga rin ang tao sa kanyang gawain. Bawal ang pagtatrabaho ng mabigat sa araw na ito at ang pagsamba sa pera. Kaya para sa atin mga Katoliko ang araw na ito, ay banal, araw ng Panginoon. Araw ng muling Pagkabuhay at bagong nilikha. Ito'y binibigyan halaga ng simbahan. Kaya ang lahat ng taong binyag ay kailangan lumahok sa misa sa araw ng linggo. Ipina-ghabawal sa araw na ito ang pagtrabaho ng mabigat (halimbawa: pagsasaka, pangingsada at pagnenegosyo) na nakakahadlang sa tao para magsamba at magpuri ng kagalakan sa Panginoon. Ang araw ng Pahinga ay ang tamang araw ng pagpahinga ng isip, puso at katawan na nagpapaliligaligan ang lahat ng ginawa ng Diyos para sa atin. Kaya mga Kababayan ko, mula ngayon ay bigyan natin ng halaga at panahon ang Araw ng Pahinga, ang Araw ng Linggo para sa ating Panginoon.

Fr. Dino A. Orolfo
 tel/fax 09972-2-0423
 keitai: 090-2085-1094

2005年ザビエル祭
 —古巣馨神父来る—

今年のザビエル上陸記念祭も例年通り8月15日(月) 祇園の洲公園のザビエル上陸記念碑前で行われる。今年は、長崎教区から古巣馨神父を招いて、8月14日17時からザビエル教会で講演も行われる予定。15日のミサでも古巣神父が説教する。記念祭は例年通り糸永司教司式でザビエル崇敬式、聖母被昇天のミサ、平和の福音宣教決意表明が行われるが、今年はミサ後に連合壮年会とユネスコ鹿兒島協会の共催による平和を祈る「平和の鐘を鳴らそう」も行われ、正午ちょうどに鐘を鳴らして黙禱をささげる。

7月

【十字架の使徒会祈りの意向】 小教区の活性化

- 3日(日) 年間第十四主日
- ▼奄美大島信徒研修会
- ▼和泊教会聖体永久礼拝
- ▼山口重義神父・頭島光神父・松森孝郎神父霊名(使徒トマ)
- 6日(水) 教区本部会議・教区本部・10時
- 7日(木) 国頭教会献堂記念日(一九六五年)
- 9日(土) 竹山昭神父叙階記念日(一九六七年)
- 10日(日) 年間第十五主日
- ▼信仰養成委員会・教区本部・14時
- 11日(月) レデンブートル会例会
- 15日(金) レデスマ神父叙階記念日(一九五六年)
- 17日(日) 年間第十六主日
- ▼種子島教会聖体永久礼拝
- 19日(火) 司祭評議会総会・教区本部・10時
- 21日(木) ユゼビウス・ウエンコ神父命日(一九七九年)
- 24日(日) 年間第十七主日
- ▼鴨池教会聖体永久礼拝
- 25日(月) 聖ヤコブ使徒
- ▼福崎英雄神父霊名
- 28日(木) 和泊教会献堂記念日(一九六二年)
- 31日(日) 年間第十八主日
- ▼鹿屋教会聖体永久礼拝
- 8月
- 3日(水) ルーシン・ヤング神父命日(一九九四年)
- 6日(土) 平和旬間始まる・15日まで

「聖体」テーマに北薩大会

純心大学で聖体賛美式

「教会にいのちを与える聖体」をテーマにした今年のカトリック北薩大会は、五月二十九日(日)に純心大学で行われた。大口、阿久根、出水、川内、入来などの小教区から約五百五十人の信徒が集まり、糸永司教司式のミサ、竹山神父の聖体について講話、聖体賛美式が行われ、聖体の年にふさわしい一日となった。

午前十時半からささげられたミサの中で司式をした糸永司教は「キリストは極みまで弟子たちを愛され、聖体を制定された。その愛は聖体を通してすべての人に注がれている。キリストの恵みの中に生きる為にミサにあずかなければならない。ミサは義務であると同時に固有の喜びを与えてくれる。生きる力の源泉であるミサのこの喜びを確信し、みんなに伝えてい

愛された」というキーワードを挙げ「私たちが永遠に生きるために、キリストは世にいる私たちをほらわがちがぎれるほど憐れんで聖体を制定し、私たちと食卓を囲んで食べることを切に願っている。この食卓はこれ以上ない私たちが愛で包まれている。私たちが同じ恵みをもらっているのだから、弟子たちのように生きていける」と話した。

その後は豪雨のため聖体行列は中止したが、聖堂で聖体賛美式が行われた。

「短信」

▼女性信徒の会総会

鹿兒島カトリック女性信徒の会(平野博美会長)は、四月二十七日(水)ザビエル教会で今年度の総会を開催した。会では小隈憲士同会顧問司祭が講話し、

会の活動が無難な路線を選ぶのではなく、他者のための選り取りができるようにとメッセージを送った。

▼レジオ黙想会

五月二十七日(金)レジオ・マリエ主催の黙想会がザビエル教会主聖堂であり、県内各地からレジオ会員を中心に百二十人余りが集まった。

指導したのは大阪セントス指導司祭の昌川信雄神父(クラレチアン宣教会)。「福音に生きる回心」を黙想のテーマに選んだ昌川神父は、身近な人との触れ合いや病人訪問での出来事、また釜ヶ崎での生活の体験から「機能的な合理性、生産性を重視する現代社会は非人間的な社会」と位置づけ、このままでは滅びに向かっている。人間が欲望から作り出した価値観に惑わされることのないように

とメッセージを送った。

▼純心で聖母行列

鹿兒島純心女子学園(末吉スナ理事長)では、五月二十八日(土)、伝統行事の聖母行列が行われた。これは、同学園の理想保護者である聖母マリアを讃え、感謝と敬愛の心を培うもの。今年は好天に恵まれ、参加者は中学生から大学二年生までの学生と教職員、保護者で千九百人近くが学園内を行列した。体育館に入場後、各クラスが聖母のために奉仕した内容が紹介されながら、百合の花とともに「心の花束」としてステージに置かれた聖母像にささげられた。その後、末吉卓也神父(ザビエル教会)の司式によるみことばの祭儀が行われた。

▼ルルド祭

大熊小教区の浦上教会(主任司祭美島春雄神父)では、五月二十九日(日)恒例のルルド祭があった。この催しは毎年聖母月の締めくくりに月末に実施されている。

今年の催しでは久しぶりに聖母行列、ロザリオの祈りを行い、また野外祭壇で聖体賛美式を実施した。式後は中庭で懇親会が開かれ、信徒同士が親睦を深めた。(報告/平三國)

▼聖心教会で堅信式

六月五日(日)名瀬聖心教会(中野裕明神父)で堅信式が行われ、同教会から十人、小宿小教区(木村敏彦神父)から五人の信徒が糸永司教から堅信の秘跡を受けた。また、この日聖心教会の信徒の一致と交流の恒例の聖心祭もあった。

▼第一回高齢者の集い

信徒有志の高齢者対策準備室「ゆらいあい」は、六月十一日(土)司教館隣の聖母寮で第一回高齢者の集いを開催した。初めての集いに出席したのは鹿兒島市内教会からの三十五人。これに二十七人のボランティア

では、五月二十九日(日)恒例のルルド祭があった。この催しは毎年聖母月の締めくくりに月末に実施されている。

今年の催しでは久しぶりに聖母行列、ロザリオの祈りを行い、また野外祭壇で聖体賛美式を実施した。式後は中庭で懇親会が開かれ、信徒同士が親睦を深めた。(報告/平三國)

▼聖心教会で堅信式

六月五日(日)名瀬聖心教会(中野裕明神父)で堅信式が行われ、同教会から十人、小宿小教区(木村敏彦神父)から五人の信徒が糸永司教から堅信の秘跡を受けた。また、この日聖心教会の信徒の一致と交流の恒例の聖心祭もあった。

信徒有志の高齢者対策準備室「ゆらいあい」は、六月十一日(土)司教館隣の聖母寮で第一回高齢者の集いを開催した。初めての集いに出席したのは鹿兒島市内教会からの三十五人。これに二十七人のボランティア

典礼刷新の意義について説明した後、各小教区の実態を分かち合った。自由な雰囲気の中で、典礼の充実に向けてこれからの課題を探っていくということが終わった。

▼聖心教会で堅信式

六月五日(日)名瀬聖心教会(中野裕明神父)で堅信式が行われ、同教会から十人、小宿小教区(木村敏彦神父)から五人の信徒が糸永司教から堅信の秘跡を受けた。また、この日聖心教会の信徒の一致と交流の恒例の聖心祭もあった。

▼奄美女性連盟総会

奄美カトリック女性連盟(重信弘子会長)は六月十二日(日)聖心教会で第二十七回総会を開いた。百七十七人出席。会では円ブリオ基金について説明があったほか、ミサがささげられ、その後ビデオ鑑賞「ヨハネ・パウロ二世平和の巡礼者」と瀧憲志神父の講演「いのちのパン」があった。

礼久永聖体



ミサに親しもう

—和泊教会—

7月3日(日)9時 教区南端の和泊小教区(メニヒ神父・信徒数百三十一人)での聖体礼拝は、信徒大会の日となっていて巡回教会からも集まる。ミサと聖体賛美式、信者作の聖ジェラルドの絵の祝福、茶話会、聖体降福式と盛りだくさん。聖体の年に当たる今年にはメニヒ神父も特に「ミサに親しむこと、信徒の交流」に力を入れ、第二



日曜のミサを英語と日本語とタガログ語で行い

日本人と一緒にミサにあずかるよう工夫したり、以前から続いている「カトリック教会の教え」の勉強会を「秘跡」をテーマに続けて、信徒のミサの理解と参加を促している。

若い神父とともに

—大笠利教会—

7月10日(日)ミサ後 昨年宣教百周年を迎えた大笠利教会(内野洋平神

父・信徒数六四六)の聖体礼拝は、巡回教会からも大笠利教会に集まり、ミサ後に班ごとに順番に聖体礼拝を行い、最後に聖体賛美式で締めくくる予定。

内野神父は一昨年の三月に叙階されたばかりの若い神父。今年四月から大笠利教会の主任を任せられ「まだ慣れるので精一杯」と苦笑いを浮かべていたが、早速、聖体の年にちなんで第二・第四木曜日の午後七時から聖体賛美式を行い始めると、毎回五十〜六十人の信徒が集

り「意外に集まってくれて嬉しそうに話していた。」

行列とロザリオ

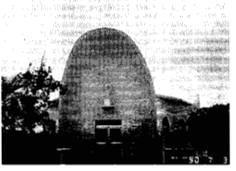
—種子島教会—

7月17日(日)ミサ後 西之表市の小高い丘の上にある種子島教会(ベルナルディーノ神父・信徒数九〇)での聖体礼拝は、ミサ後に教会の周りで聖体行列を行い、その後聖堂でロザリオの祈りと聖体賛美式が行われる予定。

教会では「聖体訪問と聖母訪問」を通して祈りに

よって心の準備を促している。信徒が「聖体を大切に、イエスさまのみ心をもっと身近に感じ、生かさ

れる力を頂くことを感じて欲しい」と主任神父は願っている。



主任神父がフィリピン人ということもあり、二年前からタガログ語のミサも月一回行われ、信徒間の交流も深まっている。

共に生きる

—鴨池教会—

7月24日(日) 鴨池教会(泉浩二神父・信徒数五五四)では、今年の小教区目標に「主日のミサ・聖体を通してとも

に生きる！」を掲げ小教区全体で聖体の年を意識し、毎月第二日曜日の九時のミサ後に聖体賛美式を行っている。始めた当初は、戸惑いもあったようだが、今では賛美式の意味や聖体の大切さを感じているようで、泉神父も「生活における聖体の必要性、聖体を通して共に生きて下されるキリストを強く感じて欲しい」と願っている。



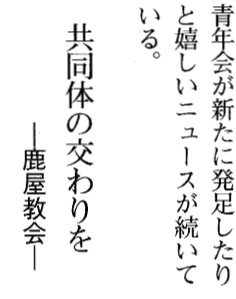
同教会では終身助祭候補 補蘭淳一郎さんが九月の司教区昇格五十周年行事の中で叙階される予定。また

青年会が新たに発足したりと嬉しいニュースが続いている。

共同体の交わりを

—鹿屋教会—

7月31日(日)ミサ後 大隅半島にある鹿屋教会(ヴィゴ神父・信徒数二五四)では、日曜日のミサ後に大根占、星塚の各巡回教会も回教会も含めて担当を決め聖体礼拝を続け、一九時からの聖体



降福式で締めくくる予定。教会では、聖体の年が始まってから毎週金曜日(第四除く)の一八時から聖体礼拝と、第四日曜日のミサ後に聖体賛美式を行ってきた。

金曜日の聖体礼拝時には、教会の祈りや教皇さまの聖体についての文書も読んでみる。またミサの説教でもしばしば聖体について取り上げられるため、信徒たちも聖体への意識が深くなってきたようだ。「聖体の恵みをもっと感じるためにも、許しあい信頼し合う共同体の交わりをもっと深めたい」と主任神父は頑張っている。

どうぞよろしく

ベトナムからやってきた教区神学生

私はティエンです。ベトナムから来ました。一年半沖繩に住んでいました。二十七日(五月)鹿兒島教区に来ました。最初、とても心配しましたが、今はもう大丈夫です。本当に来てよかったです。私を受け入れて下さった司教さまと司祭団、そして皆さんに心から感謝します。

鹿兒島教区のために一生懸命働きたいと思えます。どうぞよろしくお願います。

私の国をちょっと紹介します。私が生まれ育った国はベトナムです。私の国は小さい国ですがきれいです。ベトナムの人は親しみやすく、楽しくて親切です。

ベトナムには三つの地域があります。北部と中部、そして南部です。ベトナムは社会主義共和国です。東南アジアにあり、ラオスとカンボジアの隣にあります。言語はベトナム語で、通貨はドンです。北から南までの長さは約三三三〇キロです。一番狭いところは五〇キロという細長い国です。人口は八千万人くらいです。



文芸

俳句 (思川俳句会作品)

純心学園 山頭信子
てんとう虫マリアの像にかくれたり
螢火や石投げあそぶ川内川
(評) 「マリアの像にかくれたり」も「石投げあそぶ」初夏の宵を表白し童謡を覚える佳句。

出水 遠竹睦郎
新茶飲む清しき夏の朝餉かな
鹿兒島 徳永ノブ子
お見舞いやお祈り運び風薫る

名瀬 松畑義弘
初蟬の鳴き声いまださだまらず
阿久根 中津濱フサエ
夕風の島かげに見ゆ白帆かな

ルオーの絵のミゼレレの澄める色暗く

で、その中の七百万人がカトリックの信者です。今、たくさん若者の召命があります。カトリックは少なくとも勢力は強いです。最近たくさん宣教師が外国へ行っています。

ベトナムは一年中天気がよくて、皆さんはいつでも行くことができます。素晴らしいところです。特にダラットやブンタウ、ニャチャン、フエ、ホーチ

研修会に参加して

MEウイークエンド

玉里教会 川水益雄

五月二十七日(金)から二十九日までマリア山荘で開催された「結婚の秘跡を深める集い」に参加しました。前々から郡山神父さまに勧められていたこともあり、参加することに特別な抵抗感はありませんでした。でもマリア山荘での三日間は私たち二人にとって文字通り「目から鱗」の連続で、今までこれほど深く夫婦のかかわりについて話し合っただけでなく、漫然と過ごして来たように思えるのでした。

五月二十七日(金)から二十九日までマリア山荘で開催された「結婚の秘跡を深める集い」に参加しました。前々から郡山神父さまに勧められていたこともあり、参加することに特別な抵抗感はありませんでした。でもマリア山荘での三日間は私たち二人にとって文字通り「目から鱗」の連続で、今までこれほど深く夫婦のかかわりについて話し合っただけでなく、漫然と過ごして来たように思えるのでした。

静かに神住みをつむ
鹿兒島 春山マリ子
悪戯をされて気をもむ罪深し人に生れて
反省すべし
阿久根 中津濱フサエ

呼び合える若いつばめのかりの宿
鹿兒島 龍門司真人
見目形無垢に暮れゆく桜島

短歌 (思川短歌会作品)
古仁屋 豊島忠司
買ひ来たるカーネーションを祭壇に活けて華やく聖マリア像

(評) 作者自身を客観視した、四句五句がよい。
鹿兒島 前田儀子

句やかな嫁を迎へる子の眼文なす光のや
や細くして

黙想会「イエスとの関係を深めて」

講師 キッペス神父
日時 7月9日(土) 10時~10日(日) 16時
場所 マリア山荘 参加費 六千円
申込 西風九九五-六三一-一九四三/宮地・田〇九九二六-一四〇二二

愛情はこんなにも美しく、味わい深いものであったかとあらためて気づかされ、これから二人の人生をより大切に、正直に、充実した日々を過ごしたいと思うことでした。

また夫は、妻は、こうあるべきと気づかないところで片意地を張っていたように思うことも、今は不思議と気持ちが軽く楽に過ごせるようになりました。

日々、老化していく気力、体力、そして脳細胞、自分一人の力では抑えることができません。夫婦二人がお互いに助け合いながら豊かな老後を迎えることができるよう頑張ろうと語り合う二人でした。

ダニエルの会

吉野教会 水之浦悦子

六月十七日(金)、十八日(土)の二日間、マリア山荘で開かれた「祈りと食と健康の集い」(ダニエルの会)に参加しました。

お父様の病氣、死。それがきっかけで健康を考え、ナチュラルハイジーン(自然健康法)と出合われた植村さんが「二人でも多くの方に大切な食を考えて欲しい」と開いて下さった集いでした。

この集いには最近スマ

ザビエルさまの散歩道

この道、教えていただけませんか

大友宗麟は戦国時代に生きた人。いつも誰かに裏切られ、父親から可愛がられず、まわりの誰も信用できない環境に育った人です。

ところが彼の領国である豊後に山口からフランシスコ・ザビエルがやって来ました。その道が今も残っていると遠藤周作の話の中にあります。

大分飛行場に近い山の中に幅二メートルほどの、草がぼうぼうと生え道が今でも残っていると遠藤

配っている話と感動しました。郡山神父さまは聖書を読んで次のように話をして下さいました。「私たちのこの体は神様から頂いたものであるという認識がなければならぬ。私の体は自分のものではない。神さまから頂いたものだから恵みである。恵みを粗末にすることは神さまへの暴虐行為である。頂いたものは大切に使う。頂いたものは私の目を覚まさせてくれるものでした。

配っている話と感動しました。郡山神父さまは聖書を読んで次のように話をして下さいました。「私たちのこの体は神様から頂いたものであるという認識がなければならぬ。私の体は自分のものではない。神さまから頂いたものだから恵みである。恵みを粗末にすることは神さまへの暴虐行為である。頂いたものは大切に使う。頂いたものは私の目を覚まさせてくれるものでした。

食について、当たり前前に、鈍感になっていた私は自分のライフスタイルを見直し、今自分が頂いている食について考えなければいけないと反省しました。

健康で神さまに感謝と賛美の祈りをいつもささげることができたら幸せです。

その出会いが彼の人生にとってどんなものであったかという事は、晩年に洗礼を受けたとき、フランシスコの名を選んだことから分かります。

フランシスコ・ザビエルとキリシタン大名大友宗麟のこの道を探しています。

どなたか教えていただけませんか。
(長崎純心聖母会鹿兒島修道院 山頭信子)
▼このコラムでは、皆さまのザビエル様への想いや様々な声をお待ちしています。寄稿は教区本部まで。



トになられ、前にもましてお元気な郡山神父さまも出席されており、元気に働きたいから食の管理に気を



カトリック新聞
週刊
1部本体価格 150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年 4740円・1年 9480円
見本紙贈呈いたします

へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com